

会 議 要 旨

会議名	館山市図書館協議会
開催日	令和3年7月15日(木)
開催場所	館山市図書館
出席者	委員：大西純夫、安田 淳、眞田滋子、齋藤 実 吉田光久、生稲裕美、関 和美 教育委員会：出山教育長、船水生涯学習課長 渡邊図書館長、相川司書、長嶋主事
公開・非公開の別	公開 一部非公開 非公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	0 名
会議概要・結果等	○辞令交付 ○委員・職員紹介 ○議長・副議長選出 議長選出：大西純夫委員 副議長選出：齋藤実委員 ○議事 事務局より説明 1. 図書館の概要について 2. 令和2年度事業報告について 3. 令和3年度事業計画について 4. 今後の館山市図書館の在り方について 質問・意見等 〈令和2年度事業報告について〉 ○コロナ禍の中でありながら一生懸命運営をしていたことが伝わった。 〈令和3年度事業計画について〉 ○いろいろと制約がある中で、電子図書館という新たな取り組みやコロナ対策をした上での運営に取り組んでほしい。 〈今後の館山市図書館の在り方について〉 前回会議後に各委員から今後の館山市図書館の運営に関しての理想の形を意見としてまとめた資料について、各委員から意見や感想が出された。

- 司書に関して、人数を増やすだけでなく、「資料に詳しい司書」、「長くいてほしい」、「レファレンスの充実」といった希望がはっきり見えてきたと思う。
- 図書館は資料も大事だが、それをもとに核になる人がいかに活用するかが大事。専門的な知識のある方が長期にわたり在籍し、きちんとした見通しを立てて仕事をする必要があると思う。働き良い環境、それには人数の確保が必要で相談やバックアップできる体制があって充実した仕事ができると思う。
- 本離れ、読書離れ、人口減少の中で、世代によりメディアとの接し方や情報収集方法が異なっている。こうした中で図書館の在り方も変わってきているとも思うが、今後どのようなものを取り入れ、どのようなものを存続していくのかが課題と思うし興味を持っている。
- 昭和、平成、令和と世の中が移り変わり、コロナ禍の不安の中で、時代が変わっているので図書館も変らなければという考えもあるが、昭和の人でも未だ多く図書館を利用している。新しいメディアに対応できない人もいると思うので、急激でなく徐々に変化しつつ、昭和の良さを持った図書館で良いのかなと思う。
- ニーズに合わせた本が提供してもらえることが図書館を身近に感じることに繋がる。それは、大人にも子供にも当てはまると思う。良い本、楽しそうな本があり、それを紹介することが良いのではないかな。また、移動図書館は学校だけでなく、地域とつながる図書館の役割を果たしていると思う。
- 自分自身は、情報収集はスマホ、インターネットで十分だが、図書館は別物と考えている。どうしても必要な知識を得るためには図書館が必要と考える。働き盛りで仕事の面でわからないことに直面した時、一番助かったのは図書館だった。新しい技術が開発され、世の中が変わっているが、基本的な部分では30年、40年前の技術の方が優れていたということがある。昭和の名残のある図書館という意見があったが、それはなくさない方が良いと思う。
- 司書については、有資格者2名の実情なので大変だと思う。来年度に向けてなるべく早く体制を整えてほしい。
- 司書については、数だけでなく、資料に詳しく、長期に在籍し、休暇も考慮した中での安定した配置を、との意見をいただいた。要望としてあげたいと思います。
- これまでの議論により、図書館協議会としての理想とする図書館の在り方は見えてきたが、これをもって市民が求める図書館

像とするのはいかがかと思われる。

結果

図書館協議会としての理想とする図書館を市民に公表し、意見、感想を加えることにより、市民の求める図書館としてまとめることとする。